

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Association between maternal smoking during pregnancy and birth weight: an appropriately adjusted model from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 妊娠中の喫煙と出生体重の関連:「子どもの健康と環境に関する全国調査」のデータを用いた適切な統計モデルによる検討

ユニットセンター(UC)等名: 甲信UC

サブユニットセンター(SUC)名: 山梨大学SUC

発表雑誌名: Journal of Epidemiology 巻: 26 頁: 371 年: 2016 月: 7

筆頭著者名: Kohta Suzuki

所属UC名: 甲信UC

目的: 妊娠中の喫煙が出生体重に与える影響について、臨床情報や社会経済的状況、さらには母体の体重を同時に考慮した全国規模の研究はほとんどない。そこで、この研究ではこれらの交絡因子を考慮したうえで、妊娠中の喫煙と出生体重の関連を検討することを目的とした。

方法: 2011年に開始された日本を代表する大規模な出生コホート研究の、当初1年分の固定データを用いて解析を行った。このデータは2011年12月31日以前に、単胎として出生した9369人の情報を含む。これらの出生児は母親の喫煙状況により、「喫煙なし(NS)」「妊娠前に禁煙」「妊娠初期に禁煙」「喫煙あり(SM)」の4群に分類された。男女別の重回帰モデルにより、妊娠中の喫煙と胎児の発育についての関連を検討した。

結果: 交絡因子を調整した結果、妊娠中の喫煙は男児、女児とも出生体重と有意に関連していた。NS群とSM群における出生体重には有意な差が存在した(男児:3096.2 g (NS) vs. 2959.8 g (SM) [$p < 0.001$]; 女児:3018.2 g (NS) vs. 2893.7 g (SM) [$p < 0.001$])。

考察:(研究の限界を含める) 妊娠中の喫煙が出生体重に与える影響の検討は、国内外に多数存在するが、国を代表するデータを用いて、また出生体重に關与する臨床的、社会経済的情報をも考慮して検討したものはほとんどない。そのような意味で、より正確に妊婦の喫煙の影響を検討できたという点がこれまでの論文よりも優れていると考えられる。また、上記のような交絡因子について詳細に調整した結果はこれまでは示されておらず、そのような意味で過去の検討に比べ、喫煙の影響をより正確に評価した結果ではあるが、出生体重に与える影響は、わが国でこれまでに示されてきた検討結果とほぼ同様であったため、従来の見解を補強する結果であると考えられた。

結論: 日本において全国規模の出生コホート研究のデータを用いて、妊娠中の喫煙が出生体重を125-135g減少させる可能性を示した。

